



立看板の作り方

概要

立看板の製作方法について説明した資料です。1枚看の作り方を主に説明しますが、2枚看についても構造としては共通する部分が多いため、その都度分けて説明しています。

一般的な注意点

ペンキを利用する作業について

- ペンキを利用する作業は駒場キャンパスの槌音広場(キャンパスプラザB棟の東側にある舗装された広場)で行ってください。
- ペンキを利用する作業を行う際は、地面を汚さないように十分な対策をとってください。
- ブルーシートや古新聞などを下に敷いて作業してください。
- 道具の洗浄の際に、ペンキを水道・トイレに流してはいけません。
 - » ハケは使用後、洗わずに燃えないごみとして処分してください。

組立作業について

- 組立作業は、五月祭前日に本郷・弥生キャンパスで行ってください。
- 釘の扱いに注意してください。使用後の釘は必ず回収してください。
 - » キャンパスに放置された釘によるけがや車両のパンクなどの事故が近年報告されています。

設置について

- 設置する際は、申請結果確認画面で発表された場所に正しく設置してください。
- **立看板には必ず十分な量の重石をのせてください。**
 - » 1枚看では54kg以上、2枚看では108kg以上の重石をのせてください。なお、ペットボトルを重石とすることはできません。
 - » 山王レンタルの「のぼり用水ウエイト」の場合は1枚看あたり3個必要です。
- 立看板を木や電柱などの大学が管理している物に固定することはできません。
 - » 重石は安定するように載せてください。そのまま安定しない場合は紐などを利用して固定してください。
 - » ポリタンクには、水を十分な量入れるようにしてください。

その他注意事項

- 立看板の強度に対しては細心の注意を払ってください。
 - » 「釘は垂木の接合部1か所につき必ず2本打つ」「割れのある木材は使用しない」など、強度が満たされているか、よく確認してください。
- ベニヤ板の裏面に企画IDおよび企画責任者の連絡先を記載してください。
- ベニヤ板は5月7日（土）18:00までに駒場の委員会室に預けてください。委員会が一括して駒場から本郷へ輸送します。
 - » 公共交通機関では運ばないようにしてください。
- 設置を許可されていない屋外構造物は通達なしに撤去する場合があります。
- 製作方法や重石の量などに不備があり委員会が危険と判断した場合や強風注意報が発令されるなど強風が予想された際には、問題が解決するまで立看板を倒す、立看板の設置を許可しないなどの対応をとる場合があります。

材料

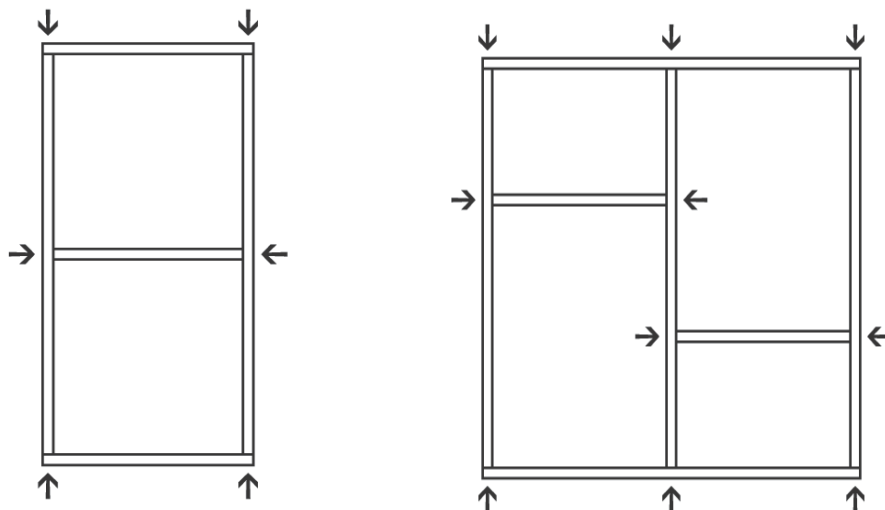
品目	サイズ (長さ×幅×厚さ)	数量		用途
		1枚看	2枚看	
垂木	3,650mm × 40mm × 30mm	5本	8本	立看板の本体部・足の製作
ベニヤ板	1,820mm × 910mm × 2.3mm	1枚	2枚	立看板の本体部の製作
釘	65mm	40本	62本	垂木の打ち付け
	25mm	29本	48本	ベニヤ板の打ち付け
ポリタンク(18L) または テントウェイト(20kg)		3個以上	6個以上	立看板の重石
丈夫な紐				ポリタンクの固定

- 計算上1枚看は垂木5本、2枚看は垂木8本で製作できますが、切断の失敗や垂木の割れなどが起こる場合を考慮し、余裕をもって用意することをおすすめします。

製作方法

1. 本体部の製作

- 1枚看・2枚看の本体部の垂木の組み合わせ方は以下の通りです。
 - » 矢印の方向に65mmの釘を2本打ち付けます。



- 本体部については、ベニヤ板のサイズが厳密に一定ではないのでベニヤに合わせて垂木を切断する形になります。
- 垂木は幅30mmの面をベニヤに打ち付ける向きで使用します（本体部を寝かせたときに40mmの高さになるようにします）。

1-1. 外枠を組む

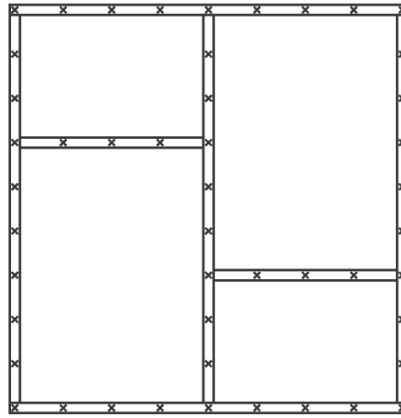
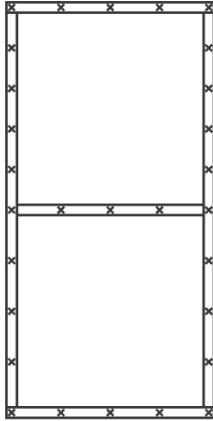
- ベニヤ板の外枠となる垂木4本(2枚看の場合は5本)を組みます。
- ベニヤ板に合わせて垂木に印をつけ、切断します。
 - » 垂木の重なり方が図のようになるよう注意してください。
 - » 1本切った後はそれに合わせて切ると作業が早く進みます。
- 垂木を図のように組み、釘を打ち付けます。
 - » 釘は垂木の接合部1か所につき必ず2本打ってください。

1-2. 間を支える垂木をはめ込む

- 組みあがった外枠に合わせて、間を支える1本(2枚看の場合は2本)を切断し、はめ込んで打ち付けます。
 - » 切断する段階で誤差が出ると十分に固定されなかったり、枠がゆがんだりするため、十分注意して切断してください。
 - » 間を支える垂木は、おおむね縦の長さを二等分する位置に入れるようにしてください。

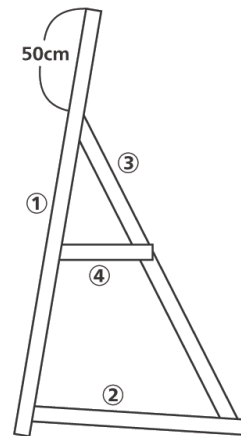
1-3. ベニヤ板を打ちつける

- 枠が完成したら、25mmの釘を使ってベニヤ板を打ち付けます。
 - » 立看板を立てたときに下側になる部分は、枠からベニヤ板がはみ出さないよう、枠とベニヤ板をしっかりと揃えてください。
 - » 釘は組んだ垂木5本(2枚看の場合は7本)すべてについて打ち付けてください。1枚看の場合、縦方向の垂木には最低10箇所、横方向の垂木には最低5箇所打ち付けてください。2枚看の場合、縦方向の垂木には最低10箇所、横方向の垂木には最低9箇所、間を支える垂木には最低5箇所打ち付けてください。
 - » 下の図を参考にして釘を打ち付けてください。(×の位置に釘を打ち付けます。)



2. 脚の製作

垂木を切り出す長さ	切り出す本数	
	1枚看	2枚看
1,500mm	2	3
1,000mm	2	3
500mm	2	3
900mm	2	-
1,800mm	-	2



- 脚の付き方を横から見た図は右の通りです。
- 手前に表示されている木材が外側に来るように組み立ててください。
- ①は本体部で、②③④との接合部分はすべて本体部の内側にあります。
- 寸法は、②が1,000mm、③が1,500mm、④が500mmです。
- 垂木はすべて、釘を打ち付けるのが幅40mmの面になるように使用します。
- 釘は必ず外側から内側に打ってください。
- 2枚看の中央の脚を取り付ける方法は、左右どちらかの脚にならってください。

2-1. ②と③の垂木を本体部に打ち付ける

- 本体部を寝かせ、②と③の垂木を本体部に打ち付けます。
 - » 2枚看の中央の脚はまだ打ち付けないでください。
 - » この段階では、次の工程で脚の角度を調整できるように、釘を1本しか打たないでください。

2-2. 角度を調整する

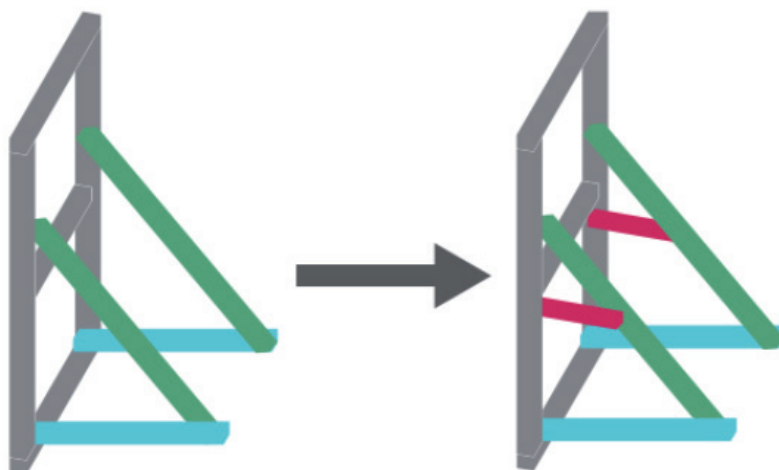
- 本体部を立て、脚の角度を調整します。
 - » 少し寝かせがある方が安定し、内容も見やすくなります。

2-3. ②と③を完全に打ち付ける

- 左右両側の角度が調節できたら、②と③の垂木を接合し、本体部と②③を接合する2本目の釘も打ち付けます。
 - » 2枚看については、このタイミングで同様に中央の脚も付けます。

2-4. 脚を補強する

- ④の垂木を打ち付けて、脚を補強します。
 - » 本体部の内側かつ1500mmの垂木の外側に取り付け、また必ず外側から釘を打ち付けてください。
 - » 脚の重なり方と強度を確認してください。



2-5. 脚同士を補強する

- 900mm（2枚看の場合は1,800mm）の垂木を2本以上使い、2本（2枚看の場合は3本）の脚をつなぎます。
 - » 補強の方法は図を参考にしてください。
 - » 補強に用いる垂木の部分は重石を置く台になります。重石が安定した状態で置けるよう、垂木同士の間隔に注意してください。
 - » 補強に用いる垂木は、なるべく本体部から遠い位置に打ち付けてください。
 - » 補強に用いる垂木は、40mmの面を下にして、接合部になるべく近い位置に、200mmほどの間隔で、65mmの釘を1か所に2本ずつ用いて脚と接合してください。
 - » 垂木が余っている場合は、さらに補強を加えてください。



3. 完成

- 強度に問題がないか、歪みやぐらつきがないか、最後にもう一度確認してください。
- 立看板の設置に際しては、以下のチェックリストの項目も確認してください。

チェックリスト

- 立看板の強度は十分か。釘を打った部分などの垂木が割れたりしないか。
- 作業を行った場所に、釘・工具・ごみなどが残っていないか。
- 重石は十分な量が確保されているか。
- 紐でしっかりと固定されているか。
- 立看板の裏面に、企画IDおよび企画責任者の連絡先が記載されているか。